

能動的な学習を通して読む力が高まる国語学習

～「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」作りを通して～

1. 設定の理由

平成32年度から、次期学習指導要領が全面実施される。改定案では、「何を学ぶか」という教育内容だけにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という資質・能力の育成までもが求められている。生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指していく必要がある。さらに、よりよい学校教育を通じて、課題の発見と解決に向けて主体的・対話的に学ぶための指導法等を充実させていく必要性もある。研究主題にある「能動的な学習」とは、生涯にわたって学び続ける力のことである。

読みの力を向上させるために、主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的な学習への転換が必要だと考え、今回の主題を設定した。

2. 研究の視点

- ①児童が目的意識をもてるようなねらいを明確にした効果的な言語活動の設定
- ②児童相互がみがき合い、深め合うことのできる交流の場を工夫。

3. 研究の内容

○授業実践 第2学年

単元名 「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作ってしょうかいしよう
教材文「すみれとあり」(教育出版 2年)

4. 結論

- ・第一次で教員が作った「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」の紹介を児童にし、自分たちも植物が仲間を増やす知恵について本を作り、発表することが学びのゴールであることを伝えたことで、目的をもって積極的に読書にとりくむことができた。
- ・できあがった本を紹介する対象を1年生にしたことで、順序に気を付けてわかりやすく書こうとしたり、絵を使って説明したりすることが意欲的にできた。
- ・第二次の中で教材文で学んだことをすぐに自分の言語活動に取り入れられるような単元構成をしたので、自分の調べたいことについて、無理なく本を読んで「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作っていた。
- ・単元計画の中で、意図的に交流する場を設けることで、お互いが最終目標に向かってより良い作品にするためのみがき合いをすることができた。

1 研究主題 能動的な学習を通して読む力が高まる国語学習

～「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」作りを通して～

2 研究主題について

(1) 今日の課題から

平成32年度から、次期学習指導要領が全面実施される。改定案では、「何を学ぶか」という教育内容だけにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という資質・能力の育成までもが求められている。生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指していく必要がある。さらに、よりよい学校教育を通じて、課題の発見と解決に向けて主体的・対話的に学ぶための指導法等を充実させていく必要性もある。研究主題にある「能動的な学習」とは、生涯にわたって学び続ける力のことである。

読みの力を向上させるために、主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的な学習への転換が必要だと考え、今回の主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「自ら学び、心豊かで、たくましい子どもの育成」である。目指す児童像の中に「自ら学び、よく考え、学んだことを活用できる子ども」がある。研究主題として掲げた「能動的な学習を通して読む力が高まる国語学習」は、この目標の具現化を図る一つの方法である。

学ぶ目的がはっきりとし、その目的のために自分でよく考え、自分の考えたことを自信をもって皆に伝えられる子どもの育成を目指したい。

(3) 児童の実態から

本校の昨年度の全国学力・習状況調査の結果では、国語のB問題の記述による正答率が低く、また、千葉県標準学力検査の国語では複数の学年が県平均に届いておらず大きな課題がある。研究テーマを「能動的な学習を通して読む力が高まる国語学習」とし、児童が目的意識をもって学習に挑むための単元づくりをしたり、ペアやグループなどの交流の仕方を工夫したりすることで、読む力の向上を図っているのもそのためである。一方で、教科への関心は非常に高く、家庭学習や詩の暗唱、漢字練習等を意欲的に行う日常の姿がある。この実態を成果へとつなぐために、主体的・対話的に学習する指導方法について自ら追求することで、児童の日々のとりくみを大きな成果に結びつけたいと考え、本研究テーマを設定した。

3 研究の視点

国語科の学習指導において、以下の2点を意識し、工夫して授業を実践すれば、子どもの読む力が高まるだろう。

- ①児童が目的意識をもてるようなねらいを明確にした効果的な言語活動の設定。
- ②児童相互がみがき合い、深め合うことのできる交流の場の工夫。

4 研究の内容

(1) 検証授業の計画・実施

①単元名 「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作ってしょうかいしよう
教材文「すみれとあり」(教育出版 2年)

②指導対象 平成28年度 銚子市立明神小学校

2年2組 (男子10名、女子7名、計17名)

実施日 2016年(平成28年)6月14日

③単元について

(ア) 単元観

本単元は、学習指導要領国語第1学年及び第2学年の「C読むこと」の指導事項「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」及び、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕文及び文章の構成に関する事項「(カ)文の中における主語と述語との関係に注意すること。」を受けて構成されている。そこで「C読むこと」の言語活動例「ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。」「エ 物語や科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。」を通して指導していく。本学習材「すみれとあり」は、すみれが種を飛ばす様子やありが種を運ぶ様子が順序よく書かれている。そのため「物事の対応を捉えること」、「できごとを時間的順序に整理して捉えること」という論理的思考を育てるのに適していると考ええる。

また、並行読書をした文章の中から、自分が心を動かされた植物を選び、「すみれとあり」で学習したことをもとにして、「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」作りにとりくむ。児童は、植物が仲間を増やす知恵について1年生にわかりやすく伝えるという目的をもって読むことで、順序に気を付けてわかりやすく書こうとしたり、絵を使って説明したり、本や図鑑に載っている言葉をそのまま選ぶのではなく、易しい表現へと工夫したりと、目的をもった主体的な読みにつながるだろうと考えた。

(イ) 単元の目標

- 知らせたい植物が仲間を増やす知恵について興味をもって本を読んだり、カードにまとめたりしようとする。 [国語への関心・意欲・態度]
- 植物の知恵について、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の内容の大体を読むことができる。 [読むこと]
- すみれとありの関係に気を付けて、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。 [読むこと]
- 文章中の主語と述語の関係に注意して内容を読むことができる。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(ウ) 評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
①知らせたい植物が仲間を増やす知恵について興味をもって本を読んだり、カードにまとめたりしようとしている。	①植物の知恵について知らせたいことを時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の内容の大体を読んでいる。 ②すみれとありの関係に気を付けて、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いている。	①「何が…どうする」「なにがどうなる」など、主語と述語の関係を正しく捉えて読んでいる。

(エ) 児童の実態

(男子10名、女子7名、合計17名)

調査日5月23日

調 査 項 目	児 童 の 反 応 (人数)
〈情意面に関する調査〉 ①国語の学習は好きか。	とても好き (11) どちらかというと好き (5) どちらかというと嫌い (0) 嫌い (1) 〈好きな理由〉漢字の学習が好き (8) 文章を読んだり書いたりするのが好き (3) グループで話し合いをするのが好き (3) 音読が好き (2) 〈嫌いな理由〉文章が難しい (1)
〈単元に関する調査〉 ②時間を表す言葉を見つけられる。	よくできる (3) できる (3) 少しできない (6) できない (5)
③知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら相手に話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。	よくできる (3) できる (3) 少しできない (5) できない (6)
④読書は好きか。	とても好き (13) どちらかというと好き (4) どちらかというと嫌い (0) 嫌い (0) 〈好きな理由〉 いろいろな本があるから (8) 読むことが好きだから (3) いろいろなことを知ることができるから (3) 本を読むとわくわくするから (2) 本はおもしろいから (1)
⑤どんな種類の本が好きか。 (複数回答あり)	生き物の本 (8) 絵本 (5) 図鑑 (5) 物語 (3) その他 (1)
⑥植物の増え方で知っていることはあるか。	〈理由〉 ある (10) たんぽぽは綿毛が飛んで増える (6) 朝顔は種が落ちて増える (3) チューリップの球根は来年も咲く (1) ない (7)

本学級の児童は、国語の学習に対して、17名中16名の児童が「好き」と答えている。文章を書いたり、話し合いで自分の考えを伝えたりと、自分の考えを表現することが好きようだ。「嫌い」と答えた児童は、1名いる。2年生になり、文章問題を読解したり、長い話を音読したりすることに苦手意識を感じているようだ。

文章を読む力に個人差があり、文章の中から根拠を見出すのではなく、感覚的な答えを出してしまっている児童や自分の考えを言葉でうまく言い表せない児童がいるなど、読み方や表現のし方に違いがある。

読解については、6名の児童が自力で時間的な順序や事柄の順序を考えながら書かれている内容を読み取ることができ、教員と共に全体で読み進めていくことができる。教員と共に一文ずつ読んでいく必要がある児童は5名で、特にその中の2名は平仮名や漢字の読みを苦手としているので、文を読むこと自体に支障がある。事柄の順序を考えながら相手に話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる児童は6名であり、話す・聞く能力に関しても個人差が大きい。

「植物の増え方」については、10名の児童が知っているものがあると答えた。たんぼのように綿毛を飛ばして遊んだ経験があるものや、アサガオやチューリップのように生活科で育てたことがあるものを挙げていた。読書の時間にも生き物や植物の本を好んで読む児童が多く、興味の高さを感じる。

(オ) 指導観

単元の第一次では、教員が作った「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」の見本を紹介することで、自分たちも「植物が仲間を増やす知恵」について書かれている本から、知らせたいことをまとめ、1年生に紹介するという学習のゴールのイメージをもたせる。また、「植物が仲間を増やす知恵」について書かれた本を多数見せながら学習の見通しをもたせるとともに並行読書への意欲付けをしていく。

二次の学習材『すみれとあり』では、児童が自分の力で「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作れるように、すみれが種を飛ばしてからありが運ぶまでを、十分読み取れるようにする。また、実態を踏まえ、学習材で学んだ読みを次時ですかさずに、自分で選んだ本の読みに活用できるようにさせたい。また、教材文と自分で選んだ本の読みを分けるのではなく、教材文を読むときも常に自分の表現に生かすといった目的意識をもって学習を進めることができるようにしたい。以上のように単元を計画することで、目的をもった読みで読む力が高まると考える。

第三次では、「植物が仲間を増やす知恵」について書かれている本から読み取ったことをもとに、「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作成する。完成した作品をクラス内で紹介し合う場を設定する。「植物の知恵」や「共生」についての認識を広げ、クラスの友だちが紹介した本を読んでみようという読書に対する意欲が高まり、それが読む力につながると考える。また、発表の対象を1年生にすることで、順序に気を付けてわかりやすく書こうとしたり、絵を使って説明したりする意欲が高まると考えられる。

5 研究の実際

(1) 教員の準備や働きかけ

①見本（モデル）の作成

児童が1年生のときに学習した、『りすのわすれもの』を、くるみとりすの共生という視点にかえて、『すみれとあり』で作る大作戦カードに作り替えた。（資料編P1資料①）

『りすのわすれもの』

- ・くるみのはじけて地面に落ちる。（すみれの実のはじけて地面に落ちる。）
- ・りすがそれを拾う。（ありが種を拾う。）
- ・りすが穴を掘ってくるみを埋める。（ありが種を運ぶ。）
- ・地面からくるみの芽がでる。（すみれの花が咲く。）

教材を挿絵と文章を合わせて作り替える。本単元の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のねらいでもある主語と述語に気を付けるというところからりすが…といった主語を意識して文章を作成した。最後のカードの書き方は、どの植物でも使える文章を意識し、「くるみはりすに種をうめてもらって芽を出します。」とした。同様に、『すみれとあり』ではどうなるのかの見本（モデル）も作成した。（資料編P2資料②）絵をかくことに抵抗がある児童もいるので、ありとすみれのイラストが入ったものを使用した。

こうして見本（モデル）を作成することで、児童がどこでつまづくのか、どこが学習のねらいなのかがわかり、必要な支援もわかる。

②単元構想の工夫

第二次の展開は、低学年ほど配慮が必要だと考えた。なぜなら、低学年は間をあげ、時間や日数が経過すると前とのつながりが薄れ、継続していこうという意欲が低下しやすい。そのため、目標を達成するための言語活動について、第二次で一通り学び、改めて第三次において自分で最初から取り組むという単元の設定は難しいと考えた。そこで、教材文で学んだことを次時で自分の言語活動に取り入れることができる（学びのスタイルを学ぶ）単元構想を行った。（資料編P3資料③）また、学習計画表（資料編P5資料⑤）を用意しておくことで、発表会までどのように学習すればよいかがわかり、常にゴールを意識して学習に取り組むことができるようにした。

③並行読書

単元に入る前に、「植物が仲間を増やす知恵」について書かれている本を、廊下の読書コーナーに並べておき、朝学習や休み時間に手をのばせるようにした。単元の導入前から意図的に、児童自らが並行読書を行う授業構成にした。並行読書は児童が読みたいものや、1年生に紹介したい植物が載っている本など児童に自己決定させた。1つの植物でも、児童が必要な情報を得るために、1冊の本だけではなく、複数の本から情報が得られるように同じ植物の本を何冊も用意した。

児童が使った資料

「アサガオ たねからたねまで」佐藤有恒、中山周平 著 あかね書房

「たねのゆくえ」埴 沙萌 著 あかね書房

「植物は動いている」清水 清 著 あかね書房

「どんぐり」埴 沙萌 著 あかね書房

「つくし」甲斐 信枝 著 福音館書店

「たねがとぶ」甲斐 信枝 著 福音館書店

「たんぽぽ」甲斐 信枝 著 福音館書店

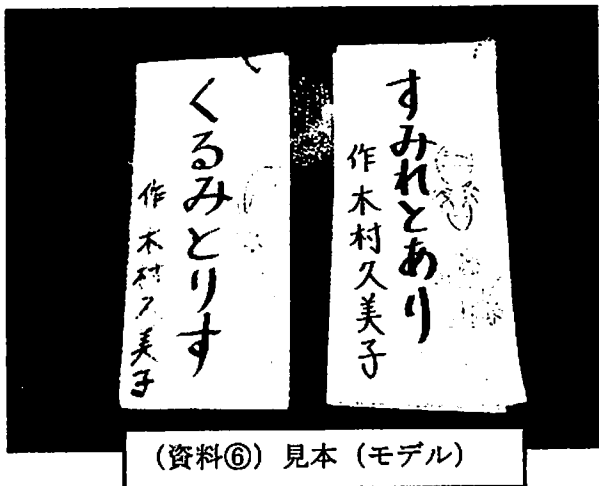
「たねのふしぎ」小林 稔 著 ポプラ社

他、40冊(学校図書館、銚子市公正図書館)

(2) 指導の実際

○1 時間目 学習の目的をもつ。

単元の導入では、教員による「しょくぶつのなかま作り大作せんブック」の読み聞かせを行った。(資料⑥) 自分たちが1年生のときに学習した『りすのわすれもの』から見本(モデル)を作成したので、読み聞かせを聞きながら「知ってる。」「りすさんが忘れんぼだからくるみの芽が出るんだね。」などと言った声が聞かれた。自分たちも植物が仲間を増やす知恵についての本をたくさん読んで、知らせたい植物が仲間を増やす知恵について1年生に紹介するという学習のめあてをもたせた。伝える相手が1年生にということを伝えると「じゃあ読み仮名をふってあげなきゃ。」「ていねいに書こう。」などといった相手を意識した声が聞かれた。また、植物の増え方や不思議が書かれている本を多数見せながら、並行読書への意欲付けをした。植物が仲間を増やす知恵についての例として、様々な場所で咲くすみれの写真を見せ、疑問や興味をもたせてから教材文に入った。



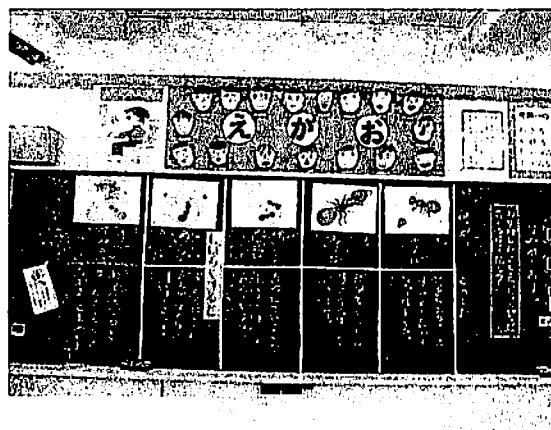
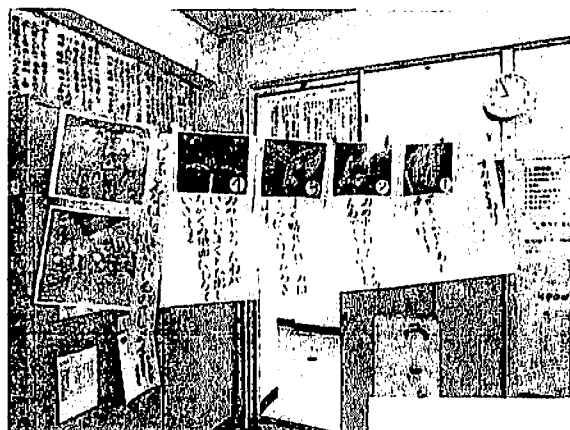
○2、4 時間目 すみれがなかまを増やす知恵について読み取る。

「すみれの花が咲いてから種を飛ばすまで」と「ありがすみれの種を見つけて捨てるまで」の様子をまとめていった。順序を読み取ることができるよう、まず絵だけがかいてあるカードを並び替えた。(資料⑦・⑧) そして、その絵に合う文章を教科書の本文から探し、主語を丸で囲んでからカードに記入させることで、すみれがしたこと、ありががしたことを見つけやすくした。(学びのスタイルを学ぶ) 授業の終末に、「じゃあみんなが調べている植物はどうなんだろうね、すみれと同じかな。」と投げかけると「ちがうよ、オナモミは動物の毛にくっついて運ばれるよ。」「そうなの、その本見せて。」など、自分が調べている植物以外にも興味をもち、朝の読書の時間や休み時間に積極的に本を読む姿が見られた。目的がぶれずに次時につながった。



「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」は、1枚ずつめくるので、カードを並び替えたり、実際に教材文で本を作ってみたりしたことで、順序が大切だということに気付いたようだ。これがそれぞれ次時で生かされる。

(資料⑦) 順序を読み取る手立て



(資料⑧) 順序を読み取る手立て

○3. 5 時間目 自分が知らせたい植物について読み取る。

なかなか題材が決まらない児童2名は以下のような理由があった。

A児 一人では本が読み切れず、寄り添って読んであげる支援が必要である。

B児 他の友だちと同じ植物ではなく、自分だけが知っているふしぎブックを作りたい。

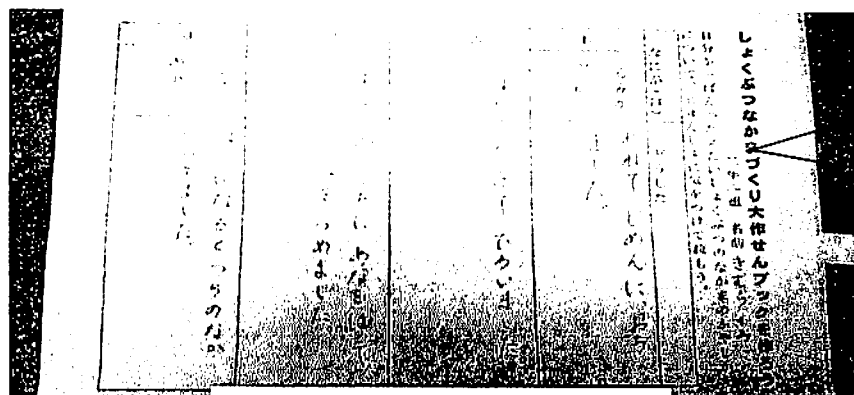
A児には、読みやすい絵本を紹介したり、仲間の増やし方を知っている植物を先に決めてからその植物の増え方について書いてある本を探したりするように助言した。A児は昨年度生活科でアサガオを育てた経験から、「今の1年生がこの間蒔いていたアサガオの増え方を教えたい。」という目的意識が生まれ、絵や写真から書きたいことを探していた。

B児の場合はそのこだわりを認め、B児だけの本を作って1年生をびっくりさせようと提案した。「ぼくだけが知っている仲間づくり大作戦を1年生に教えるぞ。」と意気込んでいた。

書き始める前に、本を読み取る視点を確認した。今回は、植物が増える知恵について書くので、必要な情報だけを探し、目的に応じた読みができるように、まずどのようなことが書いてあるページを探せば良いのか、読み取る視点を確認した。また、支援が必要な児童には本をコピーし、書き込めるようにしたり、文字を拡大したりした。様子を見てみると自分が知らせたい植物について書いてある本に付箋を貼り、本の順番になるように番号を書き込ん

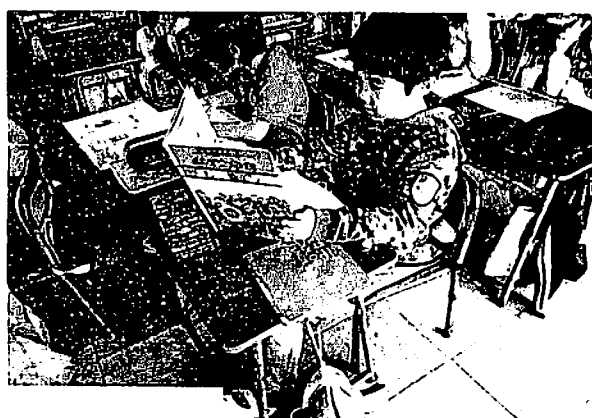
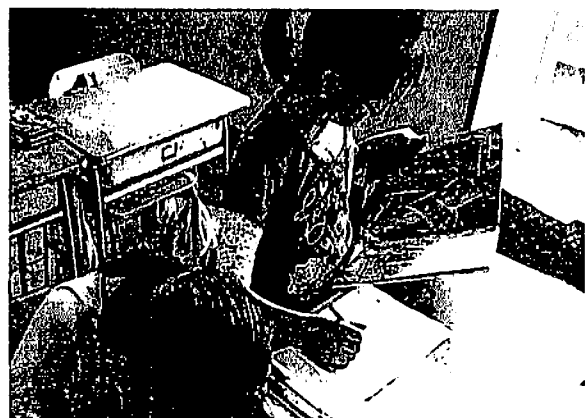
だり、「たね」「とぶ」「おちる」などを書いてそのページに貼ったりしている児童の姿が見られた。

読み取った情報をワークシートにまとめる際は、前時にすみれの花が咲いてから種を飛ばすまで作成したカードを見返したり、見本(モデル)やワークシートの見本を見たりしながら読み取ったことをワークシートにまとめていた。(資料⑨・⑩)ワークシートは、主語と述語の関係を意識でき、複雑にならないように工夫した。(資料編P6資料⑪)



見本(モデル)にそったワークシートも作成しておき、児童が自由に見ることができるようにしておく。

(資料⑨) ワークシート見本



(資料⑩) 工夫して読み取る姿

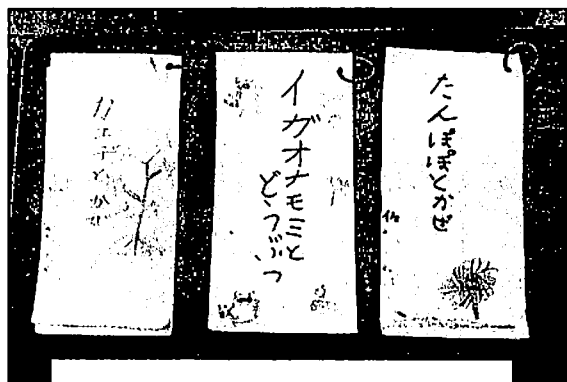
○6、7 時間目 「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作る。

完成したワークシートをペアや班で見合い、加筆・修正をした。その際見る視点を明確に示し、変更点や修正点がわかりやすいように、消さずに書きこむようにした。

☆ポイント☆

- ・ 1年生がわからないことばはないかな？
- ・ だれが(何が)したことなのかわかりやすいかな？
- ・ じゅんばんは合っているかな？

絵が苦手な児童には、「コピーを貼ってもいいよ。」と声をかけたが、全員が「自分でかきたい」と、自分なりの本を作成していた。(資料⑫)



(資料⑫) 完成した作品

カードの利点

- ・順番に整理できる。
- ・絵と文を対応させられるのでわかりやすい。
- ・本だと思わせるときに次のページが見えてしまうので、一枚一枚がよい。
- ・紙芝居だと自分で見たとき、絵と文が対応していないので、対応できるものがよい。

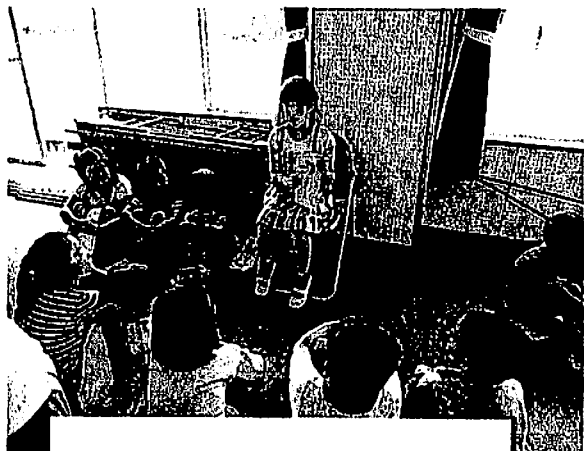
○8時間目 互いに見合い、興味を深める。



(資料⑬) 完成した作品を紹介する

友だちに紹介することで、「植物の知恵」や「共生」についての認識を広げ、クラスの友だちが紹介した本を読んでみようという読書に対する意欲が高まった。本を読むときも、「～ちゃんの本のやつだ」と積極的に本をとる姿が見られた。また、子どもどうしで発表を聞き合い、声の大きさや視線など、アドバイスをし合っていた。(資料⑬)

○9時間目 1年生に「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を発表する。



(資料⑭) 1年生に発表する様子

発表するときはなぜその植物を選んだのかという理由も話せるようにした。(資料⑭)

私がつくしを選んだ理由は、つくしは種ではなくて、ほうしという粉で増えるので、不思議だなと思ったからです。

[読みの支援が必要で題材がなかなか決まらなかったA児] (資料編P7資料⑤)

- ・ぼくがアサガオを選んだ理由は、今、1年生が育てているので、どうやって増えるのかを教えたかったからです。

[こだわりが強く、題材がなかなか決まらなかったB児] (資料編P8資料⑥)

- ・ぼくがイガオナモミを選んだ理由は、2年生でぼくだけが教えられる(選んだ)植物だからです。

児童それぞれに選んだ理由があり、満足そうに発表していた。

○発表を聞いた1年生の感想(一部抜粋)

- ・アサガオの種がどうやってできるのかがわかった。
- ・2年生の発表が上手だった。
- ・絵が見やすかった。
- ・楽しかった。
- ・風で飛んでいく種がたくさんあっておどろいた。
- ・オナモミがくつつくのは種をとばすためだったことがわかった。
- ・説明がよくわかった。
- ・自分たちも「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作ってみたい。
- ・おもしろかった。
- ・いろいろな植物の増え方がわかった。

(3) 成果と課題

〈成果〉

- ・第一次で教員が作った「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」の紹介を聞き、自分たちも植物が仲間を増やす知恵について本を作り、発表することが学びのゴールであることを伝えたことで、目的をもって積極的に読書にとりくむことができた。
- ・できあがった本を発表する対象を1年生にしたことで、順序に気を付けてわかりやすく書こうとしたり、絵を使って説明したりすることが意欲的にできた。
- ・第二次の中で教材文で学んだことを次時で自分の言語活動に取り入れられるような単元構成にしたので、自分の調べたい植物について、無理なく本を読んで「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作っていた。
- ・単元計画の中で、意図的に交流する場を設けることで、お互いが最終目標に向かってより良い作品にするためのみがき合いをすることができた。

〈課題〉

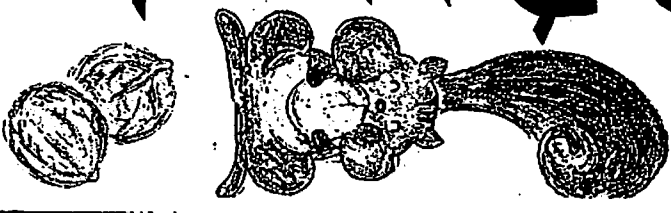
- ・読み取ることに時間がかかる児童への個別支援のしかたを考え、早い児童はその意欲を別の作品にも注げるよう、複数作ってよいことにする等、作品作りのさせ方を考える必要がある。
- ・情報量が多い本からは読み取ることが難しいので、事前に資料を吟味しておく必要がある。

資料編

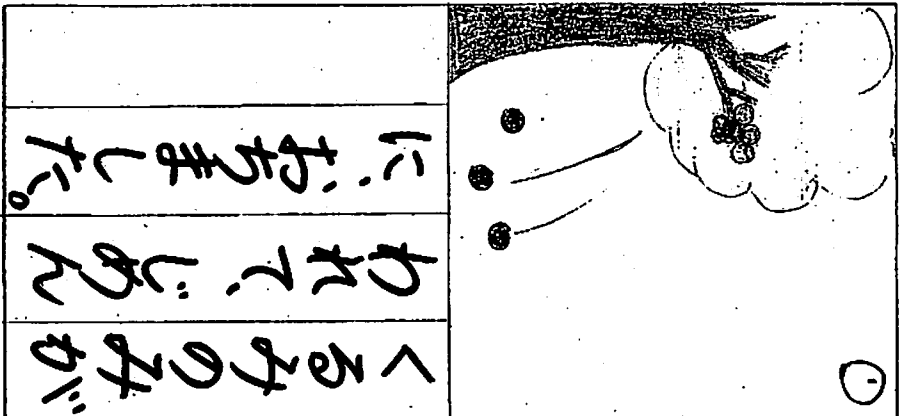
目次

資料①	「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」の見本	P 1
資料②	「すみれとあり」のモデル	P 2
資料③	指導計画表	P 3
資料④	(4 / 9) の指導案	P 4
資料⑤	学習計画表	P 5
資料⑪	ワークシート見本	P 6
資料⑮	児童の作品 (A児)	P 7
資料⑯	児童の作品 (B児)	P 8

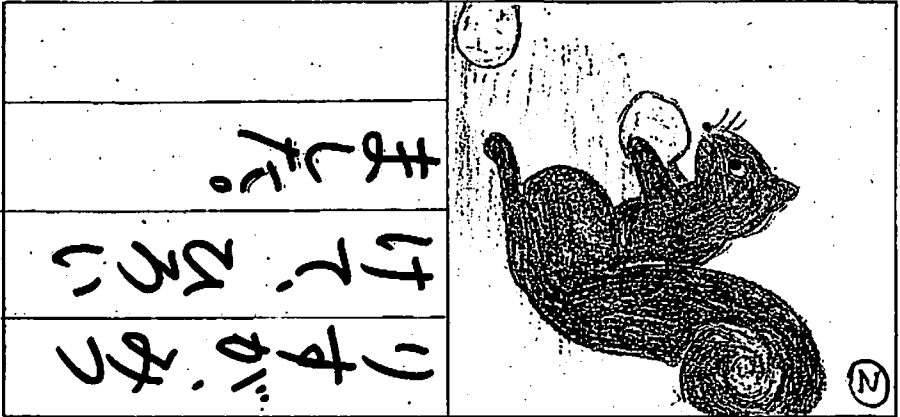
くみとリス



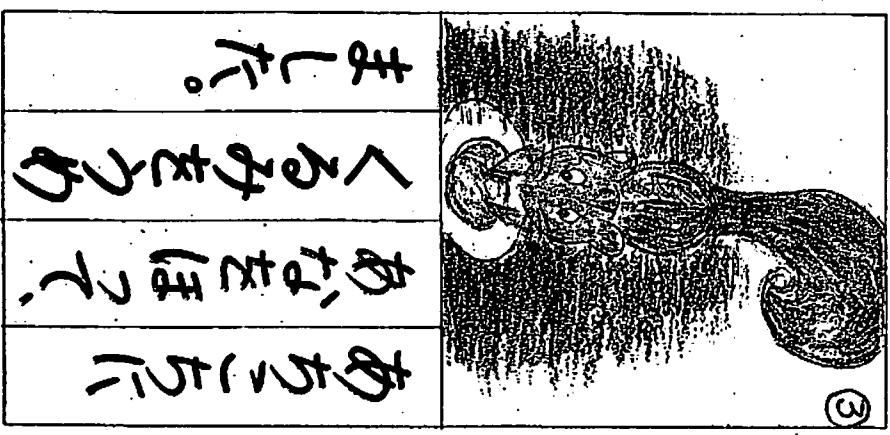
作 木村久美子



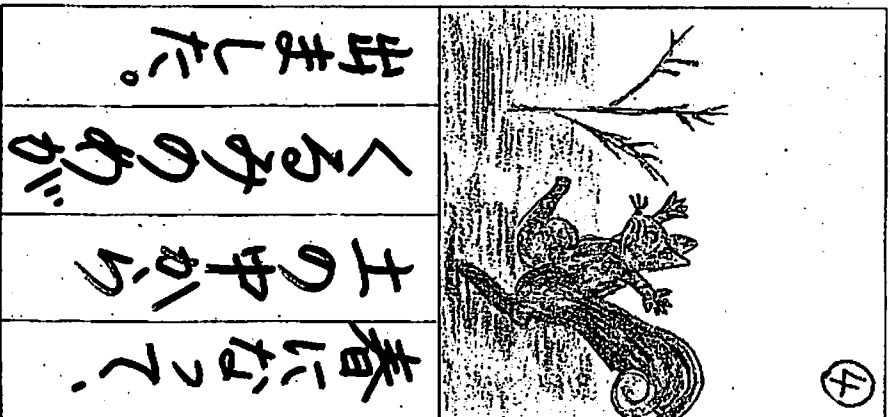
くみのみが
われて、じゅん
に、おちました。



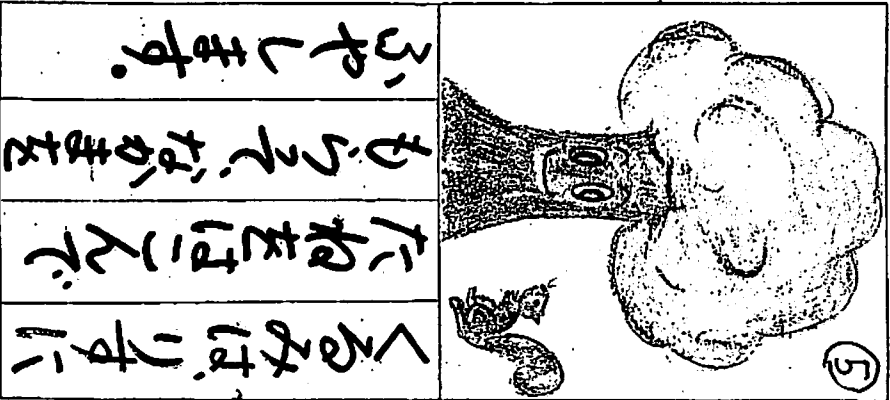
リすが、み
けて、ひろい
ました。



あち、ちい
あなをほつて、
くみをたのめ
ました。



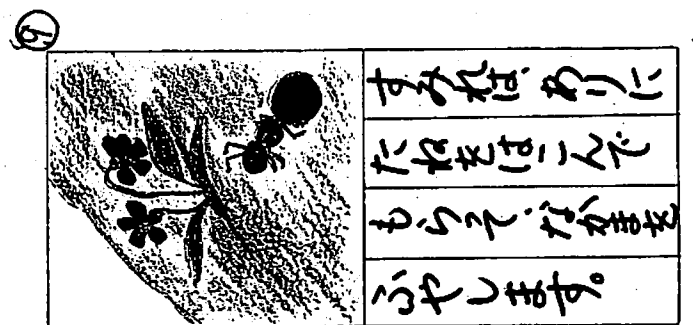
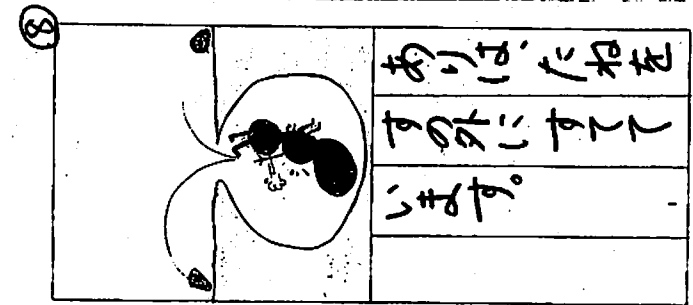
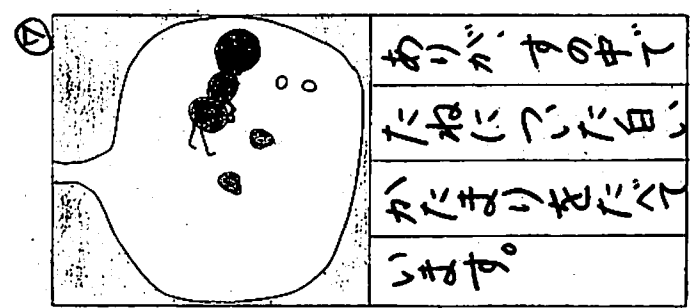
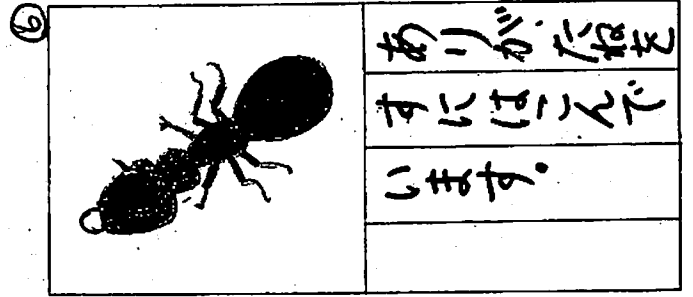
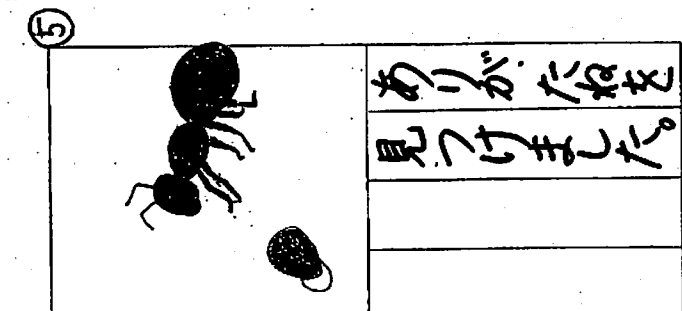
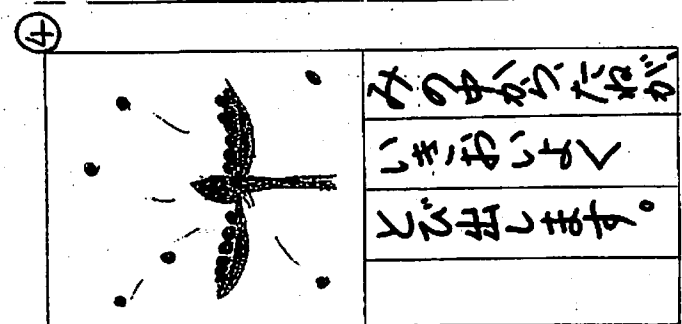
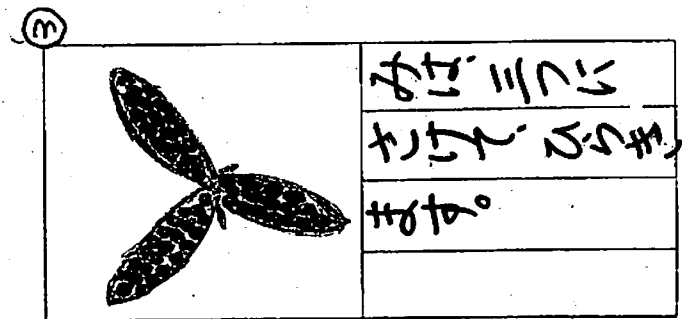
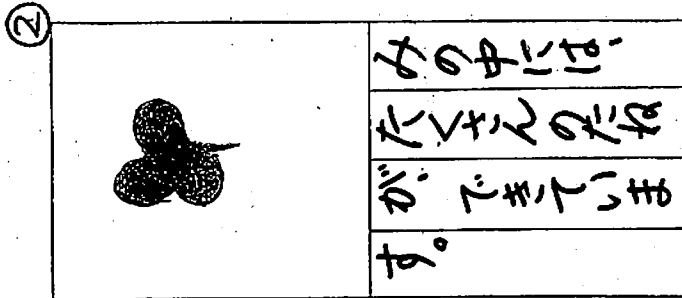
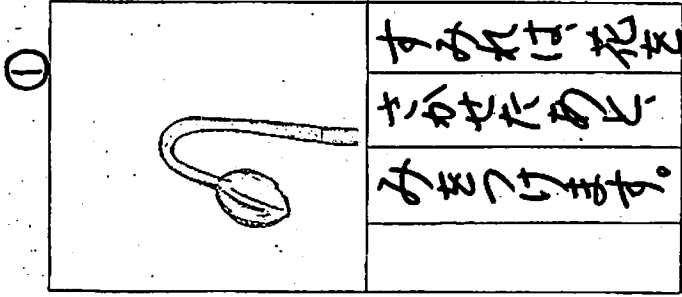
春になって、
土の中から
くみのわが
出ました。



くみは、リスに
たねをほいて、
わいて、なかせ
うやします。

すみれとあり

作 木村久美子



指導計画（全9時間）

次時	学 習 活 動	指導上の留意点・◆評価規準（方法）
一次 ①	1 【学習の目的をもつ】 ○単元全体の見通しをもつ。 ・「植物が仲間を増やす知恵」について書かれている本から、知らせたいことを1年生に紹介するという学習のめあてをもつ。 ・「すみれとあり」を読んで、感想き、発表し合う。	並 ・教師が作った「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」の見本を提示し、児童の意欲を喚起する。 ・様々な場所で咲くすみれの写真を見せ、疑問や興味をもたせてから教材文を読む。 ◆「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」作りに関心をもっている。ア①（行動観察）
二次 ④	2 【目的に向かって活動する】 ○大段落2のすみれの花が咲いてから、種を飛ばすまでのことを順序に気を付けて読み取りカードにまとめる。	行 ・順序を表す表現を押さえて読み進める。 ・写真と文章を結びつけながら理解できるようにする。 ◆すみれの花が咲いてから、種を飛ばすまでのことを順序に気を付けて読み取っている。イ①（カード） ◆文章中の主語と述語の関係に注意して内容を読んでいる。ウ①（カード）
	3 ○自分が知らせたい植物が種をつけてから飛んでいくまでを読み取り、ワークシートにまとめる。	書 ◆種が飛び出してから地面に落ちる様子を順序に気を付けて書いている。イ②（ワークシート） ◆文章中の主語と述語の関係に注意して内容を読んでいる。ウ①（ワークシート）
	4 ○大段落3のありがすみれの種を見つけてから捨てるまでのことを順序に気を付けて読み取り、カードにまとめる。 ○大段落4を読み、ありとすみれが共生関係にあることを押さえカードを完成させる。	・順序を表す表現を押さえて読み進める。 ・絵と文章を結びつけながら理解できるようにする。 ・すみれがありを介して共生関係にあることを押さえる。 ◆ありの行動とすみれの種の変化について興味をもって読もうとしている。ア①（観察） ◆ありがすみれの種を見つけてから捨てるまでの様子を順序に気を付けて読み取っている。イ①（観察・カード）
	5 ○自分が知らせたい植物の種がどのように運ばれて増えていくのかを読み取り、ワークシートにまとめる。	◆種がどのように運ばれて増えていくのかを順序に気を付けて書いている。イ②（ワークシート） ◆文章中の主語と述語の関係に注意して内容を読んでいる。ウ①（ワークシート）
三次 ④	6 【目的を達成する】 7 ○「植物が仲間を増やす知恵」について「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」にまとめる。	・絵を描くのが難しい場合は、用意してある写真やイラストでもよいことを伝える。 ◆自分が一番知らせたい「植物が仲間を増やす知恵」について、事柄の順序を考えながらカードにまとめている。イ②（カード）
	8 ○発表会にむけて練習を行う。	・声の大きさや速さを意識して発表できるように促す。 ◆友だちの発表を聞いて、読みたい本を見つけようとしている。ア①（観察）
	9 ○1年生に「しょくぶつのなかまづくり大作せんブック」を発表する。	・6グループに分かれて場を設定する。 ◆自分が一番知らせたい植物が仲間を増やす知恵について、事柄の順序を考えながら発表している。イ①（観察）

本時の指導（４／９時）

（１）目標

○大段落３と４を読み、ありの行動とすみれの種の変化について興味をもって読もうとする。
（国語への関心・意欲・態度）

○ありがすみれの種を見つけてから捨てるまでの様子と種の変化を読み取ることができ
る。
（読むこと）

（２）展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点・支援・◆評価	資 料
3	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてを知る。	・前時での学習を振り返り、すみれは近くの地面に種を落としていることを確認し、高い石垣やコンクリートの割れ目に咲いているのはなぜか、疑問をもたせる。 ・写真を提示し、本時のめあてを知らせる。	前時までの掲示物 ありが種を運んでいる写真
	ありがしたことををじゅんじょに気を付けて読もう。		
5	2 本時の学習範囲を音読する。 ・個人で読む。 ・交互に読む。	・スムーズに読めない児童には教師と一緒に読んで支援をする。 ◆大段落３と４を読み、ありの行動とすみれの種の変化について興味をもって音読しているか。（関意態：観察）	
4	3 4枚の絵のカードを並べてありがしたことを順序よく説明する。 ①ありが種を見つける絵 ②ありが種を運んでいる絵 ③ありが食べている絵 ④ありが種を捨てている絵	・ありがしたことを4枚の絵と対比させて順序を押さえられるようにする。	ありがしたことを表すカード（児童用）
30	4 ありがすみれの種を運んでから捨てるまでのことを順序に気を付けて読み取り、カードにまとめる。 ・ありが種を運ぶ様子を表す文に線を引く。 ①ありが、地面に落ちているすみれたねを見つけました。 ②ありは、たねをじぶんのすの中へはこんでいきます。 ③しばらくすると、せっかくはこんだたねをすの外にすてています。 ④ありはどのように仲間を増やすのかをまとめる。	・「ありが（は）」という主語に印をつけてありがしたことを見つけやすくする。 ・「しばらくすると」という時間の経過を表す言葉の意味を押さえ、白いかたまりは、ありが食べていることに気づかせる。 ・文章に合った絵を用意し、イメージしやすくする。 ◆ありがすみれの種を見つけてから捨てるまでの様子と種の変化を読み取ることができたか。（読むこと：カード）	ありがしたことの絵（掲示用）
3	5 本時のまとめをして次時につなげる。 ・本時の場面を読み、振り返りをする。	・ありの行動とすみれの種の変化について、まとめたことが合っているか確かめながら読ませる。	

学習計かく表

しよくぶつのなかまづくり大作せんブック作ろう。

時間	学習すること
①	学習の見通しをもとう。
②	すみれの花がさいてから、たねをとばすまでのことをじゅんばんに気をつけてカードにまとめよう。
③	自分が知らせたいしよくぶつがたねをつけてからとんでいくまでを読んでワークシートにまとめよう。(かくにん)
④	ありがすみれのたねを見つけてからすてるまでのことをじゅんばんに気をつけてカードにまとめよう。
⑤	自分が知らせたいしよくぶつのたねがどのようなにはこぼれてふえていくのかを読んでワークシートにまとめよう。(かくにん)
⑥	自分の「しよくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作ろう。
⑦	自分の「しよくぶつのなかまづくり大作せんブック」を作ろう。
⑧	はっぴよう会にむけてれん習しよう。
⑨	一年生に「しよくぶつのなかまづくり大作せんブック」を発表しよう。

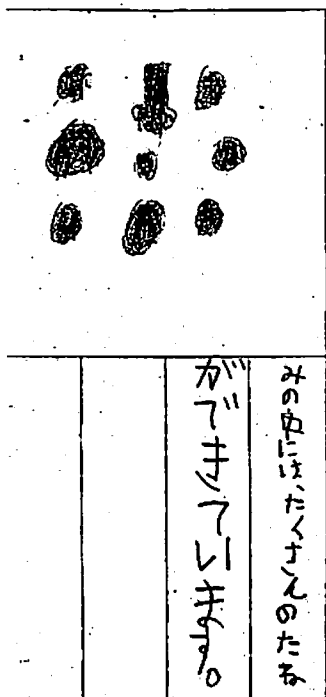
しよくぶつななまづくり大作せんブックを作ろう

二年二組 名前きむらくみこ
自分が一ばんつたえたいしよくぶつのななまのふやしきたについて、じゅんじよに氣をつけて読もう。

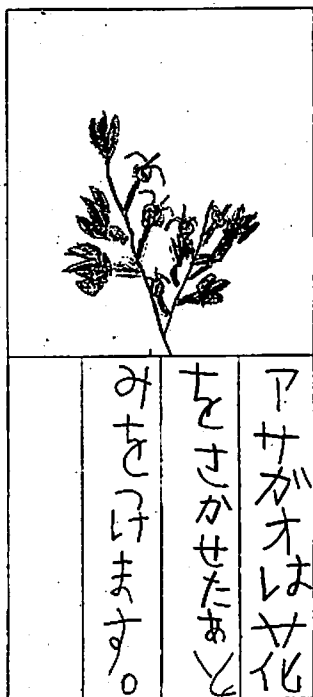
なにが(は)	①	②	③	④
どうした	われて、じめんに、おちました。	みつけて、ひろいました。	あちこちにあなをほって、くるみをうめました。	はるになるとつちのなかからでました。

⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
くるみは りすにたねをはこんでもうてななまをふやします。				

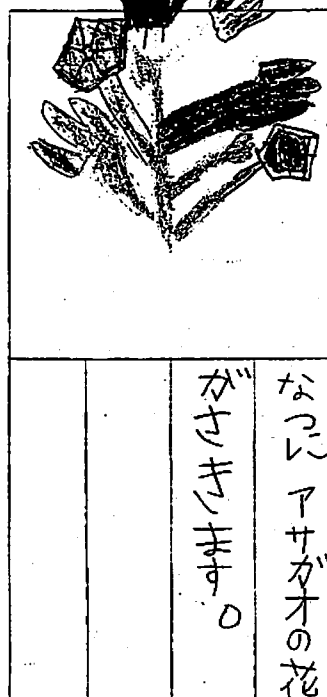
③



②

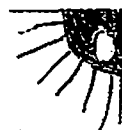


①

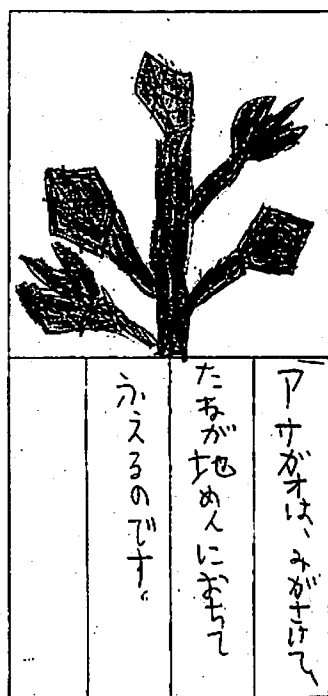


作

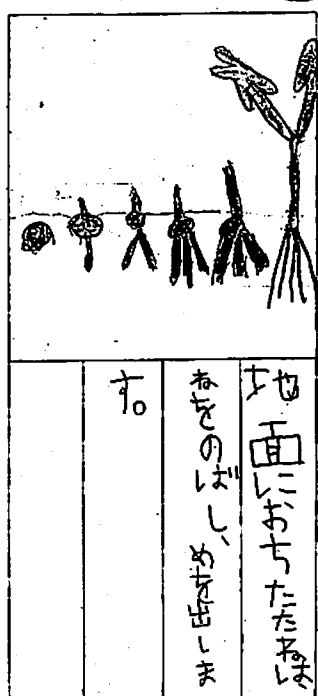
アサガオとたね



⑥



⑤



④

